

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 12 月 15 日

【評価実施概要】

事業所番号	3671500852
法人名	社会福祉法人 高越会
事業所名	グループホーム 上板
所在地	徳島県板野郡上板町神宅字堂床27 (電話) 088-694-7171

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 12 月 8 日

【情報提供票より】(平成 20 年 11 月 10 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤: 10人、非常勤: 1人、常勤換算: 1階 5.8人 2階 5.0人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階 部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	その他実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
月額		30,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 11 月 10 日現在)

利用者人数	13 名	男性	7 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.6 歳	最低	62 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中西内科クリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は静かな田園地帯に位置し、玄関入り口には花を植えている。玄関を入ると楽しく話し合っている利用者と職員の声が聞こえる。共用空間の東と南側は大きなガラス窓で暖かい光と共に季節を感じることができる。流し台の近くには米びつや野菜を置き、家庭の雰囲気を感じることができる。また壁面にはたくさんの絵手紙を貼り、心を和ませている。音や光、換気にも留意し、利用者一人ひとりを大切にしたい暖かい生活支援が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な課題である「評価の意義の理解と活用」、「運営推進会議を活かした取り組み」、「市町村との連携」、「運営に関する家族等意見の反映」、「同業者との交流を通じた向上」、「重度化や終末期に向けた方針の共有」については改善している。「地域とのつきあい」、「職員の異動等による影響への配慮」、「職員を育てる取り組み」、「鍵をかけないケアの実践」については改善されていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者や職員は評価の意義を十分理解している。自己評価は全職員で検討し、管理者がまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員、消防署員、駐在所員が参加している。会議では事業所からの活動報告、消防から災害時の対策について、警察からは利用者が一人で外出した際の具体的な対応方法などについて討議し、参加者からの貴重な意見も出ている。討議内容は記録して全職員で共有し、運営に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の日々の暮らしぶりや健康状態、金銭出納簿の写し、写真を毎月家族に送付している。運営に関する要望などは意見箱の設置や苦情相談窓口の表示、来訪時の言葉かけなど、気軽に言ってもらえる雰囲気づくりを工夫している。意見等は改善に向けて素早く取り組み、記録に残している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩や買い物に出かけた際に近隣住民と挨拶を交わしている。また隣接するケアハウスの利用者や知り合いの来訪などがある。しかし、行事に参加するなど、地域住民の一人として交流する機会が十分とはいえない。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員が意見を出し合い、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や事務室に掲示し、申し送り簿にも明記している。朝礼時には理念を唱和して共有し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や買い物に出かけた際に近隣住民と挨拶を交わしている。また隣接するケアハウスの利用者や知り合いの来訪などがある。しかし、行事に参加するなど、地域住民の一人として交流する機会が十分とはいえない。	○	自治会や老人会に働きかけるなどして地域の人々との交流を深められたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価の意義を十分理解している。自己評価は全職員で検討し、管理者がまとめている。外部評価の結果は全職員に伝えて話し合い、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員、消防署員、駐在所員が参加している。会議では事業所からの活動報告、消防から災害時の対策について、警察からは利用者が一人で外出した際の具体的な対応方法などについて討議し、参加者からの貴重な意見も出ている。討議内容は記録して全職員で共有し、運営に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月の報告連絡に加え、管理者は町の保健福祉計画・介護保険策定委員の委嘱を受けて会合に出席し、情報交換したり助言を受けたりしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日々の暮らしぶりや健康状態、金銭出納簿の写し、写真を毎月家族に送付している。しかし金銭出納簿への利用者・家族の確認印・サインがない。	○	金銭出納簿に利用者・家族の確認印・サインをもらうことが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する要望などは意見箱の設置や苦情相談窓口の表示、来訪時の言葉かけなど、気軽に言ってもらえる雰囲気づくりを工夫している。意見等は改善に向けて素早く取り組み、記録に残している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を大切にして職員の異動は行っていない。しかし、新規採用職員のみが定着せず、馴染みの関係による支援や利用者の負担への配慮が十分とはいえない。	○	新規採用者の定着に努められたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での研修を2か月に1回開催し、認知症の理解や救急時の対応についてなど、マニュアルにそった介護支援の実践に役立つ内容で行っている。しかし、外部研修に参加する機会が十分ではない。	○	職員の段階に応じた外部研修を受けられるよう研修計画を立てるなどして実施に向けて取り組まれない。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との相互訪問、意見交換などを通してサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族と話し合いを重ね、事業所を見学してもらったり、職員との会話を通じて馴染みの関係をつくるなどして利用に向けた支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は調理や洗濯物たたみなど、利用者一人ひとりの生活歴や趣味を活かし、教えてもらいながら共に生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。意思表示の困難な方には表情や行動から把握するようにして利用者本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族、医師、職員など必要な関係者と話し合い、それぞれの希望や意見を反映した介護計画を作成している。計画書には利用者・家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて見直している。また状態変化や状況に応じた見直しも適宜行い、現状に即した計画になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員は利用者や家族の状況、要望に応じて通院や外出支援など柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の意向を大切にして、希望するかかりつけ医との連携を密にし、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族、医師などと話し合い、方針を文書化して共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮し、排泄時などにはさりげない言葉かけなどが行われている。個人情報保護マニュアルを作成し、取り組みを徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味や家事への参加などは、利用者一人ひとりのその日の希望や状態を重視しながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ジャガイモやタマネギなどの食材は常に利用者が取り出しやすい場所に置き、調理も職員と一緒に行うなどして食事を作り、みんなで楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じていつでも入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や趣味等に応じて調理や洗濯、掃除の役割分担や園芸など、その日の気分や体調に配慮しながら楽しめるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩など、その日の利用者の希望や体調を配慮しながら外出支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は鍵をかけることの弊害を理解している。しかし利用者の安全を第一に考えて、利用者や家族の了解を得て玄関を施錠している。	○	日中は鍵をかけないケアの実践に向けて取り組まれたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防署や駐在所、民生委員が参加し、災害や火災を想定した訓練を年に2回実施し、記録している。マニュアルや連絡網の整備、食料の備蓄も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を確認し、記録している。献立は隣接するケアハウスの管理栄養士から助言・指導を受けている。ご飯をおにぎりにするなど、食べやすくする配慮なども行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には花を生け、壁には家族から届いた絵手紙や手作りの月間カレンダー、利用者の写真などを掲示している。カレンダーには毎日シールを貼り、日付の認識ができるよう配慮している。流し台の近くには野菜を置き、家庭のぬくもりが感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスやテレビ、思い出の写真等を持ち込み、その人らしい居室づくりを支援している。		